

# 光といのち

第151号  
2025年1月1日発行

発行所  
真宗大谷派勝善寺  
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌(井上孝昌)



## 報恩講 日中法要

私は、  
いったい何のために  
生まれてきたのだ  
ろうか。

## 謹賀新年

寺族一同

百々海 真 先生の題字下の言葉が「仏法を聴聞せよ」と聞こえました。これは、「ご催促です。」

先生は、講題を「オギャア」の翻訳」とし、「宗教とか信仰とか言っても別のことがあるわけではなく、各自が自分の誕生の「オギャア」を生涯かけて翻訳することだ」と暁 烏 敏 師の仰せを紹介されました。

「私は、いったい何のために生まれてきたのだろうか。」と問い訊ねることが、宗教であり信仰。私の思いを固め頑なにすることではなかったのだ！

文頭のご催促に應えるために、裏面下段の「ご予定ください」を、みな様の仏法聴聞の場として設けます。そして、住職は率先して聴聞します。さらに首を長くして、みな様を待ちます。もう一つ、題字下の言葉から発見がありました。

真宗大谷派宗務総長を務められた能邨英士師の言葉に「どう生きるかが問題ではない。何のために生きるかが問題である。」

とあります。実はずっと、私には解らない言葉でした。

「どう生きるか」は、一度限りの人生を後悔しないようにとか、最後まで迷惑をかけないようとか、日常的な関心事です。「何のために生きるか」は、健康や名誉や信念や金のためとか、「世のため人のため」ということで、これも自我を満足させる欲望で、仏教ではありません。だから師の言葉に、疑問を懐いていたのでした。

ところが「何のために生きるか」、「自分の誕生の「オギャア」を生涯かけて翻訳する」ためでした！

仏法聴聞すると、その都度に発見がある。こんな楽しく嬉しいことはありません。

無病息災・家内安全  
・商売繁盛など、**私の願いを超えた功德を**いただく法要**修正会**に、お参りください。

**一月二日(木)**  
**十時〜十一時半**

# ご門徒の質問

# 信心(信仰心)とは？



信仰心が無いようになっちゃいますけど、

今、大事なことを仰ってくださいました。

**質問者** ここで仏教を批判してしまつと、信仰心が無いようになっちゃいますけど、そういう意味ではなくて・・・

**講師** 今、大事なことを仰ってくださいました。「信仰心が無いようになっちゃいますけど」と言われませんが、「人間に純粋な信仰心は無い」と見通しているのが真宗仏教ですよ。「人間からの仏道は成立しない」という見定めが本願の仏道の根底なのです。この点は私もずっとはつきりしなかったことです。が、親鸞聖人がおっしゃる「信心」は、人間の信仰心を意味しません。「信心深い」とか、「イワシの頭も信心から」という具合の人間の信仰心は、時には「神も仏もあるものか」と恨みに変わるほどに首尾一貫しないと見通されているのです。言い換えれば浄土真宗用語の「信心」と一般社会用語の「信心」は、言葉は同じでも指し示すことが全く違う。完全に別物です。

『真宗大谷派勸行集(赤本)』一五頁上段の和讃に「信心の智慧」とありますね。親鸞聖人は、「信心」とは「智慧」、人間を人間以上に深く知りおしている仏の智慧と言っています。如来の本願が私に至り届く時、「信心」と名前が変わるんです。ですから信心とは何か、「一念」、「瞬間の目覚め、気づき、回心懺悔です。自分のデタラメさが言い当てられる時の到来です。「ああ、そうか」という驚きです。」

ところが私たちは、神や仏にすがって心の安らぎを得るのが宗教だと、仏法聴聞する前から決めつけています。だから聴聞しても、正しく聴けないのです。わかっていないから、わからないのです。

ご信心とは  
弥陀の智慧  
わたしが信する  
それでない

「大信心は  
仏性なり  
仏性すなわち  
如来なり」(親鸞聖人「諸経和讃」)

如来の智慧を  
たまわりて  
ナンマンダブツ  
ナンマンダブツ

木村無相 『念仏詩抄』

本山同朋会館の守衛を勤めていた木村無相氏の詩です。「私が信する／それでない」と言いきっておられます。

「ご信心とは 弥陀の智慧」とは「ああ、見えていなかったなあ」と、私を一瞬照らす光の言葉。それに出遇った。それが聞こえた。その一瞬が信心の時、一念です。はじめに拝読した「礼讃」の裏側にある「我は実にこの念によりて救済されつつあるを感ず」の「念」が「一念」、現在ただいまです。

具体的には「ああ、そうだったか」、「頭を下げて仏さまの仰せに順うなんて根性が一つもない自分だったな」と知らされる一瞬です。

あえて申せば、如来がわれらを信じて疑わないのです。その一点において、仏法の景色が一変するはずです。

**質問者** 一応、理解したつもりです。解らないところは住職に聞いていきます。つまらないことを言ってしまうって皆さん申し訳ありません。

**講師** つまらないどころか、最も大切なことを仰ってくださいました。如来は私たちに「疑うな。信心深くなれ」とは要求しません。私たちに絶対無理、とお見通しだからです。

**質問者** 有り難うございました。

みな様のお力により報恩講が円成しました。ズームでのお参りと合わせ、速夜法要32名、晨朝法要18名、日中法要88名、延べ138名でした。また、188名の方から974,000円の御懇志と仏花・供物米も寄せられました。有り難うございました。この剰余金682,484円と昨年までのと合わせ、本堂畳替え費用 3,605,103 円を支出しました。椅子や机で傷がつきにくいタフリングという新素材の畳です。これで私たちの世代には、畳替えをしなくて大丈夫そうです。しかし、ご門徒のみな様が集まってこそその物種です。どうぞ仏法聴聞に足をお運びください。



精進弁当で会食



おみがき

- |       |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |        |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|--------|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| (敬称略) | 重藤 | 伊藤 | 能重 | 姫松 | 田中 | 狩野 | 明石 | 朝倉 | 駐車場係 | 堀海 | 大胡 | 精進弁当配布 | 田中 | 川名 | 朝倉 | 御懇志入金 | 高梨 | 久保 | 池田 | 池田 | 受付 | 黒川 | スーム | 福原 | 能重 | 坊守 | 渡邊 | 三堀 | 能重 | 能重 | 富永 | 田村 | 田中 | 鈴木 | 重田 | 黒川 | 川名 | 足達 | 朝倉 | 明石 | 明石 | 青木 | 坊守 | 渡邊 | 吉田 | 三堀 | 長谷川 | 能重 | 中山 | 中川 | 中川 | 中川 | 中川 | 富澤 | 田村 | 高梨 | 川名 | 川名 | 黒川 | 狩野 | 伊藤 | 市川 | 石井  | 池田 |
|       | 明美 | 照代 | 隆  | 実  | 誠  | 昌也 | 圭司 | 智  |      | 栄子 | 美子 | 布      | 昭一 | 利幸 | 和利 | 剛     | 守  | 義正 | 千枝 | 代枝 | 敦信 | 広美 | 勉   | 秀子 | 住職 | 清  | 秀子 | 清  | 勉  | 隆  | 晋一 | 昭一 | 昭一 | 一郎 | 和夫 | 敦子 | 喜昭 | 崇智 | 義久 | 圭司 | 敏夫 | 住職 | 秀子 | 誠  | 清  | 吉枝 | 隆   | 郁夫 | 弥生 | 正博 | 政男 | 知子 | 晋一 | 剛  | 三枝 | 三枝 | 信之 | 敦子 | 昌也 | 照代 | 榮子 | 久  | 千代枝 |    |

仏眞磨き



伊藤照代氏感話

縁

私は、中佐久間の伊藤と申します。人前でお話してできるような者ではありませんが、自分の思ったことを話せばよいとのことでしたので、少しお話しさせていただきます。

私が南無阿弥陀仏という念仏にご縁ができたのは、大切な人との突然の別れがあり自分自身どうしたら良いのかわからず、身体がここにあっても気持ちはこちらにあらずという状態の時でした。家の中に居ても自分自身落ち着いていられる場所も無く何も手につきませんでした。その頃に住職が初七日・二七日・三七日と七日ごとにお参りに来てくださっていたので、そんな自分の様子をそのままお話しすると、

「南無阿弥陀仏」と掌を合わせ、念仏を称えると言われたのでした。

その時の自分は、きっと曇にもすがりつきたい気持ちだったのだと思います。それから毎日何度も何度も掌を合わせ「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏・・・」と称える日々が長く続きました。

しかしいつの間にか気がついてみると、その回数は少しずつ減っていました。今思えば、すがりつくような気持ちも和らぎ平常を少しずつ取り戻していたのでしよう。今も朝晩お内仏（仏壇）の前で合掌しお念仏は称えています。そして仕事にも復帰できました。

この春に長年勤めていた仕事を退職すると、以前から親しくしていたいている方に誘われ、勝善寺の「月曜朝のお勤め」に毎週参加させていただくようになりまし。

月曜日の朝六時から十人ほどの人たちと本堂で「正信偈」などのお勤めをして蓮如上人の「御文」を拝聴し、住職の法話を聴きます。

「すべて成るように成っている。」「良い事も悪い事もすべて

ご縁。」「起こった事実には立ち生きていく。」「独りで生きているのではない。共に生きている」というような仏教の考え方を聞いていると、なるほどとうなずけます。

四十分ほどの短い時間ですが、毎回とても楽しいです。一週間の始めということもあり、自身気合いも入ります。皆さんもぜひ一緒にしませんか！

また、勝善寺などでの聞法会にも参加させていただくようになりまし。仏教のことはよく解りませんが、お仲間と一緒にお勤めをして仏教を聴きお喋りできるのは楽しいです。

この感話をしなければならなくなり、私は独りで生きているのではないということに、改めて気づきました。確かに私はそうでした。人間は独りでは生きていけませんね。いろいろな人に私は助けていただきました。ほんとうに有り難いことでした。お陰様です。こんな自分も誰かの助けになっていたら嬉しいのですがね・・・。

うまく気持ちが言えず、お聞き苦しかったと思います。すみませんでした。

1ヶ月定くたさい

修正会

1月2日(木)	10時～11時30分
八日講十日講	
1月8日(水)	9時～11時
親鸞教室	
1月23日(木)	13時半～16時
仏教を聞き語り会(入会)	
2月9日(日)	13時半～16時
親鸞教室	
2月26日(水)	13時半～16時
春彼岸会	
3月20日(木)	10時～11時30分
仏教を聞き語り会(入会)	
兼花まつし	
4月6日(日)	13時半～16時
親鸞教室	
4月30日(水)	13時半～16時
仏教を聞き語り会(入会)	
5月11日(日)	13時半～16時
中佐久間講	
5月20日(木)	13時半～16時
親鸞教室	
5月29日(木)	13時半～16時
八日講十日講	
6月1日(日)	9時～11時
奉仕作業	
6月8日(日)	8時30分～
勝善寺聞法会	
6月8日	13時半～16時
仏教を聞き語り会(入会)	
7月20日(日)	13時半～16時

※八日講十日講・奉仕作業以外は、ズーム配信します。